

GSJ 地質ニュース

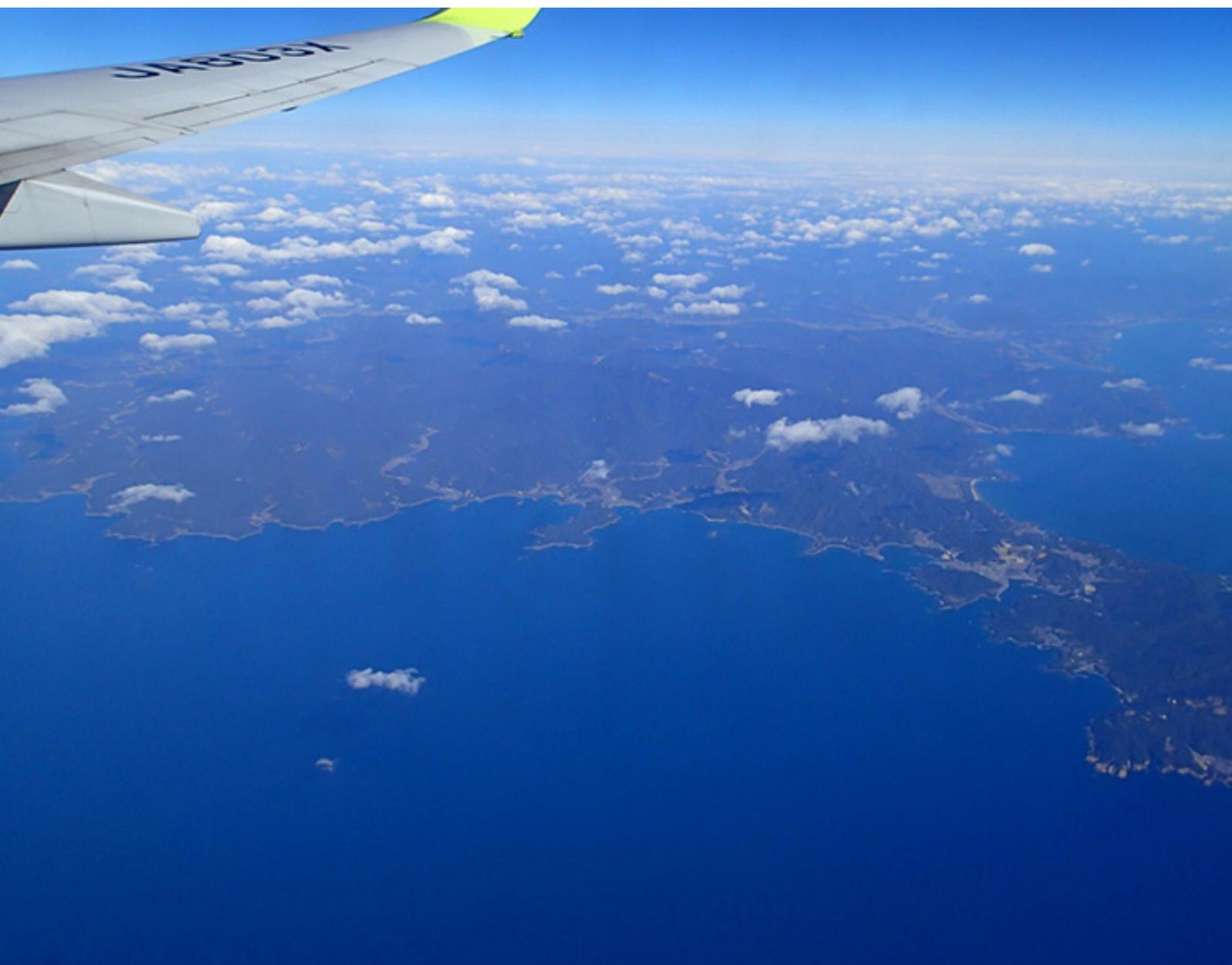
GSJ CHISHITSU NEWS

— 地球をよく知り、地球と共生する —

2016

8

Vol. 5 No.8



8月号

口絵 233-234

千葉市の沖積層内湾堆積物から発見された 海綿動物化石

小松原純子・宮地良典・伊勢優史

235-239

長期の断層活動性を評価する手法の開発を 目指して：手法の紹介とその適用事例

大坪 誠

240-243

少人数で実施する反射法地震探査

伊藤 忍

244-250

東西日本の地質学的境界【第二話】見えない不連続

高橋雅紀

251-255

SIP「次世代海洋資源調査技術」における 産総研の2015年度の成果と今後の取り組み

山崎 徹, 池原 研, 石塚 治, 井上卓彦

256-259

産総研と鹿児島地方気象台との連携による 火山灰処理と2014年研修会報告

大石雅之・宮城磯治

260-262

科学と社会の狭間で：一報道記者として 思うこと

濱田哲郎

ニュースレター

263 平成28年度地質調査総合センター新規採用職員研 修報告

Cover Page



Aerial view of Cape Ashizuri-misaki, southwestern Shikoku Island.

(Photograph and caption by Futoshi NANAYAMA)

航空機から見た四国南西端の足摺岬

弘法大師の縁の地である足摺岬は、地質学的な見所が多いことが従来より知られている。岬の中～東部には、後期漸新世～前期中新世に海溝域で生じた清水層と呼ばれる四万十帯の付加コンプレックスが分布する。一方、西側の電串海岸から足摺港付近にかけては、三崎層群と呼ばれる前期中新世の非変形の浅海層が不整合でこれを覆う。さらに岬の先端部には約1,400万年前に貫入した足摺深成複合岩体が分布し、この中には本邦では珍しいラパキビ花こう岩が認められる。足摺岬は第四紀に隆起し、中期更新世以降に複数の海成段丘面が形成された。

(写真・文：七山 太 / 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門)